

# 大鹿 Heat Beat

第 25 回 ~ 大鹿の人々

紙谷 正 さん (85)



年々冬が日本の四季から遠ざかっているように少しさみしさを覚える今日この頃。初氷は11月16日でした。主峰赤石岳の雪もまだ姿を現しません。そんな中でも山里の冬仕度は進んでいます。軒下には大根、イモがら大豆など連ねています。今年は大豆が豊作味噌仕込みが得意そうです。

神無月号に引き続き「大鹿村騒動記」坂本順治監督のインタビューを掲載します。

Q 2010年の夏に大鹿村の地を初めて踏まれ、第一印象はどのような事を感じましたか？

A: トンネル抜けたら村ではないですか、導入がとてもいい。知らないうちに村に入っているのではなく「トンネル」という一つの狭い入口があって、でそれを抜けると村が広がっているという起承転結があるんですね。物語性をとても感じました。そして原田さんから聞いていたように四方八方、山に囲まれていて…その風景が大自然の大きさと、そこで頑張っているちっぽけな人間の営み。人々が寄り添いながら暮らしているということが想像できました。

Q 大鹿村の人たちの印象は？ A: 「とりあえず酒を飲め！」といわれました。とりあえず飲んで話そうということでした。その中で何を手伝えばいいのか、何をお願いしたいのか、酒を挟んで話そうと。何をやるにしてもお前のごこと(坂本監督)がわからないと話が進まないということですよ。で僕ら映画や産も会議室で話すこともあります、そのあと酒を挟んでお互いの気質がばれあったりする中で本当の仕事ができたりするんで、やっぱりこう…お酒って事務的なものを取り払ってくれるところがあるじゃないですか。そういう意味では僕らも、他の職業よりかは普段から飲む方なんですけど…でも、負けましたね。凄いですねこちらの人の強さって。でもお陰ですぐお互いを知ることができてご迷惑はいっぱいかけたんですけど、短期間だけれども、すごい濃厚な時間が過ごせましたね。それがお互いであればうれしいんですけど(笑)

Q お酒の席でお互いを理解し合ってからその後 2011年11月おおよそ2週間の撮影で映画を作り上げられました。撮影現場はどのような雰囲気でしたか？

A: 2週間ということはそれだけ夜遅くまで頑張らなくてはいけなくて、寒かったし。でも近所の方とか、村の方があったかいものをずっと差し入れてくれたんですよ。

鹿鍋とか…心のケアをしていただいたようで、あーなんか受け入れられているなってことで。邪魔はしているかもしれないけど許してもらっているなって感じとか、そういうのに囲まれてやりきることができました。よくもまー聞きつけて本当に毎日毎日来ていただけるなーという感じでした。こちらが願っているわけではないんですよ。

Q 最後に、伊那谷は歌舞伎を始め人形浄瑠璃など芸能が根付く場所でもあります。こういった地方の文化というものはどのようにとらえてらっしゃいますか？

A: 娯楽でもありますけど、奉納でもあるわけですよ。村の安全とか豊作を願うとか、そういう性質があるかないかはその村の営みが変わってくるということですよ。いうならばそこに村の人たちの願いが含まれているということですから。ただここに文化が芸能が芽生えているのではないわけ。だからそれに寄り添うことで生きていけるということなんです。芸能であり、文化であり、生活の一部である。それが必要であったということですよ。楽しむだけにあったものかもしれない…もっと切迫したものだったのかもしれないですね…ああやって客とかけあいながら、他人を演じてそこに喜びも感じて、そういうものではありますけど、奥深く観ると必要とされてそこに生まれ育って、続けなきゃいけないという意志を持っているということだと思えますよ。僕ら都市部で住みますけど、映画も地方の文化と融合することでまた新しい文化が生まれるような気がしています。都会でばっかり撮ってもつかれる映画しかできないですよ(笑) 僕が思うにはね。やっぱりこういう自然の中で映画を撮ると、今まで肌触れ合うこともない人と会ってそこで何か芽生えるんですよ！発想とか…そう思います！！



今年のお米の取れ高は史上2番目に多く、米袋(およそ30キロ入り)が98袋が収穫できました。米質もくず米が少なくきれいなお米です。11月初旬にもみすりをし出荷が始まりました。そのもみは保温材として室に詰めたり田んぼで燃やして肥料とします。今年はなかなか寒さがやって参りませんが、先日の初氷以降には大根やダリアの球根をしまい始めました。またピーマンやしし唐の種を保存し始めるのもこのころです。かつてほど寒さはありませんが土の中で保存するとお野菜が長く元

気で、おいしさも長持ちするといえます。米袋は一輪車で運びます！！



~右馬允からの人事のお知らせ~

6月からサービスと一部お料理を担当していましたソムリエの允が12月は東京の「パリの朝市」にお世話になることが決まりました。尚、右馬允は通常営業です。パリの朝市の詳細はこちら↓↓↓ <http://pariasa.com/tenpo.html>

海外それがオオシカ谷です。特に今回初登場のファイヤードダンスは上野の路上パフォーマンスは顔負けの一芸。村在住の「めでた屋さん」。春のお祭りなどご注目頂ければと思います。

# 大鹿スケッチ

2011 霜月 前志満くみ 第30号

葉っぱアート



楠の葉っぱ



はすのはかずら



ハナノキ



アカシデ



大鹿歌舞伎がますます有名になり、さぞ歴代の村役者も天から驚きの声をあげていることでしょう。かつては大鹿村の住民だけが楽しむものであった「大鹿歌舞伎」。各集落ごと春の奉納歌舞伎として、また農繁期に向けて鼓舞するための娯楽として上演されてきました。年2回の上演になったのはつい最近1983年のことです。先日11月12日には産業文化祭がありました。このお祭りが現代において、村民が一番生き生きと一人ひとりが楽しんでる祭りであると感じました。このお祭りでは屋台始め、自慢の農産物から農業の傍ら女性が織りなす手仕事の数々が格安で販売されています。また芸能好きのオオシカ人の舞台はフラムenco、アフリカダンス、ファイヤードダンス、社交ダンス、よさこいソーランなど多彩。海を渡った海外より、近くの海外それがオオシカ谷です。特に今回初登場のファイヤードダンスは上野の路上パフォーマンスは顔負けの一芸。村在住の「めでた屋さん」。春のお祭りなどご注目頂ければと思います。